2025（令和 7)年度 看護学部 卒業時アンケート結果

ＩＲ委員会
ＩＲ課

Ⅰ．看護学部卒業時アンケート調査の概要

１．目的

1） 学生自身が看護学部における学びを振り返り、看護学部の教育、支援及び自己の成長について評価する。

2） 1）の結果に基づき、看護学部の継続的な教育改善に役立てる。

２．実施

1） 対象：東京純心大学 看護学部 2025（令和 7）)年度 卒業生 62 名

2） 時期：2025（令和 7）年 2 月 17 日

3） 配付・回収方法：2025（令和 7）年 2 月 17 日の看護師国家試験自己採点時にて、

4） ホワイトボードへ Google フォームの QR コードを掲示。

5） 回収状況：50 名（回収率 80%）

３．質問項目

1）ＤＰ（「ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与に関する方針）の自己評価について

2）看護学部の教育（講義・演習・実習）について

3）看護学部の支援について

4）学生の成長について

5）看護学部の教育に対する満足度について

Ⅱ 調査結果

１．ＤＰ（ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与に関する方針）の自己評価について

			1 身についていない	2 あまり身についていない	3 どちらともいえない	4 ある程度身についている	5 身についている
DP1	キリスト教の精神を基調とし、かけがいのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。	人間の尊厳と権利を擁護する力	1 (2%)	0 (0%)	3 (6%)	16 (32%)	30 (60%)
		人間関係形成力	0 (0%)	0 (0%)	2 (4%)	19 (38%)	29 (58%)
DP2	倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。	臨床判断力	0 (0%)	0 (0%)	9 (18%)	22 (44%)	19 (38%)
		科学的看護実践力	0 (0%)	0 (0%)	7 (14%)	23 (46%)	20 (40%)

Ⅱ　調査結果

１．ＤＰ（ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与に関する方針）の自己評価について

			1 身についていない	2 あまり身についていない	3 どちらともいえない	4 ある程度身についている	5 身についている
DP3	多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。	対象ニーズに基づく看護実践力	0 (0%)	0 (0%)	5 (10%)	26 (52%)	19 (38%)
DP4	看護専門職としての役割･責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。	看護専門職として自律する力	0 (0%)	0 (0%)	3 (6%)	27 (54%)	20 (40%)
		多職種連携・協働力	0 (0%)	0 (0%)	2 (4%)	22 (44%)	26 (52%)
DP5	看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。	課題発見力	0 (0%)	0 (0%)	5 (10%)	25 (50%)	20 (40%)
		課題解決力	0 (0%)	0 (0%)	5 (10%)	25 (50%)	20 (40%)
		看護創造力	0 (0%)	0 (0%)	8 (16%)	23 (46%)	19 (38%)
		継続的に学ぶ力	0 (0%)	0 (0%)	6 (12%)	21 (42%)	23 (46%)

☞「⑤身についている」、「④ある程度身についている」と回答したものを合わせると、「対象ニーズに基づく看護実践力」において 90%弱と高い習得状況を示している。また、「人間の尊厳と権利を擁護する力」、「人間関係形成力」、「臨床判断力」、「科学的看護実践力」、「課題発見力」、「課題解決力」、「看護創造力」、「継続的に学ぶ力」において、80%を超える高い習得状況を示している。

ＤＰ達成状況

		1 身についていない	2 あまり身についていない	3 どちらともいえない	4 ある程度身についている	5 身についている
DP1	キリスト教の精神を基調とし、かけがいのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。	1 (1%)	0 (0%)	5 (5%)	35 (35%)	59 (59%)
DP2	倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。	0 (0%)	0 (0%)	16 (16%)	45 (45%)	39 (39%)
DP3	多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。	0 (0%)	0 (0%)	5 (10%)	26 (52%)	19 (38%)
DP4	看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。	0 (0%)	0 (0%)	5 (5%)	49 (49%)	46 (46%)
DP5	看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。	0 (0%)	0 (0%)	19 (10%)	69 (35%)	62 (31%)

☞「①身についている」、「②ある程度身についている」と回答したものを合わせると、「ＤＰ１」が 94%、「ＤＰ２」が 84%、「ＤＰ３」が 90%、「ＤＰ４」が 95%と高い結果となった。
「ＤＰ５」は 66%と、他と比べると低い。

【参考】ディプロマ・ポリシー達成状況（自己評価）とディプロマ・ポリシーに関わる学修評価

		自己評価 Lv. 0-4	学修評価 Lv. 1-4
DP1	キリスト教の精神を基調とし、かけがいのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。	3.51	3.20
DP2	倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。	3.23	3.59
DP3	多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。	3.28	3.75
DP4	看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。	1.80	3.74
DP5	看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。	2.47	4.45

＊自己評価は「⑤身についている」を４点、「④ある程度身についている」を３点、「③どちらともいえない」を２点、「②あまり身についていない」を１点、「①身についていない」を０点として換算
学修評価は、各ディプロマ・ポリシーを達成する必修科目の評価ＧＰの平均

２．看護学部の教育（講義・演習・実習）について

		1 改善の必要がある	2 どちらともいえない	3 改善の必要がない
1)	看護学部の講義について	7(14%)	26(52%)	17(34%)
2)	看護学部の演習について	4(8%)	21(42%)	25(50%)
3)	看護学部の実習について	9(18%)	19(38%)	22(44%)

３．看護学部の支援について

		1 全く充実していなかった	2 充実していなかった	3 どちらともいえない	4 充実していた	5 とても充実していた
1)	アドバイザーによるサポート・相談について	2(4%)	4 (8%)	11(22%)	17(34%)	16 (32%)
2)	進路・就職に対するサポート・相談について	0(0%)	1 (2%)	14(28%)	13(26%)	22 (44%)
3)	国家試験に対する支援について	0(0%)	4 (8%)	15(30%)	17(34%)	14 (28%)

４．本学での学びや体験を通じた成長について

	1 全く成長しなかった	2 成長しなかった	3 どちらともいえない	4 成長した	5 大いに成長した
本学での学びや体験を通して、入学時と比べてどの程度成長したか。	0(0%)	1 (2%)	6(12%)	18(36%)	25 (50%)

５．東京純心大学看護学部の教育に対する満足度

1 全く満足しなかった	2 満足しなかった	3 どちらともいえない	4 満足している	5 大いに満足している
0(0%)	6 (12%)	14(28%)	22(44%)	8 (16%)